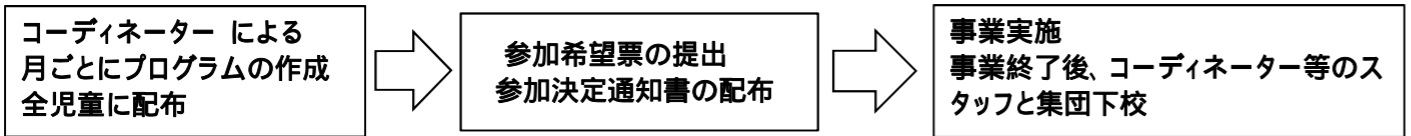


事業概要シート

担当部名	こども未来部	事業名 (子事業名)	放課後子ども教室推進事業費
担当課名	こども育成課	根拠法令・例 規・要綱等	放課後子ども総合プラン
担当係名	放課後こども係		厚木市放課後子ども教室推進事業実施要綱
事業開始年度	平成23年度		
関連する事業 (子事業名)			
事業概要			
目的	小学校に通っている全ての児童を対象に、学校の一時的余裕教室等を活用し、地域の多様な方々の参画を得ながら、様々な体験学習、スポーツ、文化、交流活動等をとあして、子供たちの心豊かで健やかな放課後の居場所づくりを推進するものです。		
対象	放課後子ども教室を実施している小学校に通学している児童		
実施方法	授業終了後、児童は帰宅せず、直接、放課後子ども教室の会場に行き、約1時間から2時間のプログラムに参加します。対象児童は1年生から6年生までの全学年が対象です。		
事業詳細	<p>全児童の放課後対策として、小学校の一時的余裕教室等を活用し、子供たちが元気で心豊かに放課後を過ごすとともに、地域社会の中で子供たちを見守り育む環境づくりを進めるため、平成23年10月に相川小学校放課後子ども教室を設置しました。平成27年度は、モデル事業(平成26年度実施)の検証を経て、鷲尾小学校において2教室目を設置し、平成29年度は、玉川小学校においてモデル事業(平成28年度実施)の課題を検証しながら、再度、玉川小学校でモデル事業として実施を予定しています。</p> <p>平成28年度 延べ参加人数 7,567人</p> <p>【主なプログラム】 「学習の場」科学教室、工作教室、自然観察等 「体験の場」スポーツや文化活動等の様々な体験(バウンドテニス、サッカー、大道芸教室等) 「交流の場」クリスマス会、おやつづくり等 「遊びの場」水鉄砲や凧作りなどの昔遊びの体験等 相川小学校放課後子ども教室 平成24年度「優れた地域による学校支援活動」文部科学大臣表彰受賞</p>		
事業の効果	児童からは、「学校でともだちと一緒に遊べる。」、保護者からは、「地域の大人とあいさつをするようになった。」などの意見をいただくとともに、地域で子供たちを見守り育む気運が高まりました。		
事業周知方法 ・内容	毎月学校ごとにプログラムを作成した上で、児童に配布し、児童が参加希望講座の希望票を提出し参加としています。 また、新年度4月においては、新1年生に対して、放課後子ども教室の案内チラシを作成し、放課後子ども教室参加児童を募集しています。		

事業の全体像(フロー図、写真などを用いて事業の様子を視覚的に説明)



コーディネーター 市非常勤職員

おもしろ科学教室



大道芸教室



スタッフと集団下校



ぬり絵・ブロック・粘土で遊ぼう



代表的な 事業指標	指標名	放課後子ども教室実施校数					
	指標の説明	国の「放課後子ども総合プラン」に基づき、あつぎ子ども未来プランの中で指標を設定している。					
		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標備考
	目標	校	2	3	3	4	
	実績		2	3	3		
	達成率		100%	100%	100%		

事業のコスト					
コスト	単位	平成27年度(決算)	平成28年度(決算見込み)	平成29年度(予算)	
	事業費	千円	9,087	9,155	11,344
	人件費		4,211	4,305	
	経費総額		13,298	13,460	

人件費内訳	平成27年度人件費内訳(単位:千円)				平成28年度人件費内訳(単位:千円)			
	行政職1	@ 8,421 × 0.50 人	=	4,211	行政職1	@ 8,610 × 0.50 人	=	4,305
	行政職2	@ 8,304 ×		0	行政職2	@ 8,472 ×		0
	消防職	@ 8,672 ×		0	消防職	@ 8,719 ×		0
	再任用	@ 3,514 ×		0	再任用	@ 3,716 ×		0
	臨時職員	@ 1,186 ×		0	臨時職員	@ 1,197 ×		0
	その他	×		0	その他	×		0

事業費及び 財源内訳 (千円)	年度	総額	一般財源	国県支出金	市債	その他
	H27(決算)	9,087	6,774	2,294	0	19
	H28 (決算見込み)	9,155	6,615	2,525	0	15
	H29(予算)	11,344	8,426	2,903	0	15

事業費内訳	【平成29年度予算の内訳】	
	報酬費	8,947千円(コーディネーター2人 サブコーディネーター等6人)
	共済費	706千円
	報償費	72千円
	旅費	75千円
	需用費	996千円
	役務費	450千円(電話料金、傷害保険料等)
	委託料	98千円(健康診断委託料)

**市民要望
社会的要請
課題**

放課後、子供が安全に過ごすことができる居場所づくりが求められています。地域社会の中で、放課後等に子供たちが、多様な体験・活動を行うことができる様々な機会が必要とされています。(出典:放課後子ども総合プラン)
 新たなボランティアの確保、放課後児童クラブその他放課後関連事業との役割と連携を明確にする必要があります。また、今後の小学校での展開については、学校内のスペースの確保が困難であるとともに、経費の増加等が十分予想されます。現在、プログラムの地域講師については、無償で講師をお願いしているため、講師依頼の範囲が限られていることも課題となっています。

**上記課題等への
対応や見直しの
方向性**

現在、放課後子ども教室推進事業費補助金を受け事業を展開していますが、放課後に様々な学習や体験・交流ができる機会を、年間を通じて日常的に提供していくことができるような仕組みづくりを推進していくことが基準となっており、限られた予算で実施校数を増設するためには、事業実施方法の再研究、その他放課後関連事業との役割の明確化と統廃合を検討する必要があります。

見直しの有無 有

**直近3か年以内
の事業見直しの
有無とその内容**

平成28年4月に市放課後子ども教室推進事業実施要綱を一部改正し、それまでは事業参加のために毎年度登録申請が必要としていましたが、小学校在籍中1回のみでの登録申請として、参加者負担の軽減と事務の簡略化を図りました。また、相川小学校放課後子ども教室については、放課後児童クラブとの役割を明確にするため、平成29年度から実施回数を見直しを行っています。

**近隣自治体等
の状況**

平成28年度実績
大和市19か所、海老名市13か所、伊勢原市3か所、座間市1か所、秦野市1か所実施

【事業番号4】放課後子ども教室推進事業費(事前確認・回答)

委員事前確認事項	
1	学童保育(放課後児童クラブ等)と放課後子ども教室にはどのような違いがあるのか。
2	各教室の実施回数や参加人数の実績は。
3	参加者又は参加者の保護者の評価は把握しているか。把握している場合、評価は意見はどのようなものがあるのか。
4	大和市や海老名市よりも実施数が少ないが、自治体により実施方法は違うのか。

担当課事前回答
<p>放課後児童クラブは、就労等により保護者が日中留守にしている家庭の児童を対象に適切な遊び及び生活の場を提供するための施設です。 放課後子ども教室は、全児童が対象で、スポーツ・交流活動等を提供する事業となります。</p>
<p>平成28年度実績としては 相川小 78日・延べ5,890人、鳶尾小 106日・延べ1,599人、玉川小 8日・延べ78人 となっています。</p>
<p>アンケートでは、児童からは「学校でともだちと一緒に遊べる。」、保護者からは「地域の大人とあいさつをするようになった。」などの意見をいただいています。</p>
<p>自治体により、居場所の提供のみ行うものや多様なプログラムを提供するものなど、地域の実情に応じた様々な方法で実施しています。</p>